

要 望 書

現在、都市は多様で個性ある地域づくりを目指して市町村合併を進めています。

「平成の大合併」において、根底に脈打つのは、地方分権の推進であります。生活圈・経済圏等を一つにする市町村は、新たな枠組みの中で分権の受け皿にふさわしい規模と力を蓄えるべく必死の覚悟でこの合併を進めてきました。

地方で出来ることは地方で、身近でスリムな地方の行政体が住民の声を取り入れながら地域主体のまちづくりを進めることが真の地方自治の姿であります。

群馬県内は39の市町村に再編成されることとなりました。とりわけ都市部の人口は、県人口の約8割を占めることとなり、市民の意見を反映したまちづくりが急務であります。

再編された市町村では、それぞれ一体感の醸成や新しいまちづくりへの取り組みを開始しています。地域の実情を反映した的確な住民意見の集約により、新「群馬」の枠組みが強固なものとなると確信いたします。

地方自治の根幹である民意が適正に県政に反映され、各都市や群馬県全体の発展につながるよう新たな県議会議員選挙区割の実現と定数の早期見直しを強く要望いたします。

平成17年11月29日

群馬県市長会長 松浦 幸雄



群馬県知事 小寺 弘之 様

群馬県議会議長 中村 紀雄 様